



四十八坂から見た船越半島とタブの大島



山崎泰昌議員

## 観光行政

# 船越半島の景観を活用する考えは

## 観光船廃止後は活用策に苦慮

**質問** 本町の美しい海や景観を生かすために船越半島を活用する考えは。

**沼崎町長** ある旅行会社の観光地格付けでAランクに評価されているが、素晴らしい景観の醍醐味を堪能するには船上からでなければならず、観光船廃止後は、容易に見られない状況である。観光船廃止後、船越半

島を活用しなかった訳ではなく、期間限定やイベントとのタイアップを実施してきた。もっと活用したいと考えているが、現時点では活用策に苦慮しているところである。

**質問** 町では、平成22～24年度までに前須賀タブの木荘線の整備を行うようだが、長林大浦線が整備されたこ

とから、田の浜地区と小谷鳥地区を結ぶ道路も整備し、船越半島を1周できる観光道路として活用する発想はないか。

**産業振興課長** 田の浜小谷鳥線は、利用者が少なく有効活用できなかった。観光道路としての位置付けについては検討課題としたい。  
**質問** 舗装していない道路を観光客は通らない。検討する余地があるのでは。  
**沼崎町長** 全線の舗装は、現状の財政では不可能である。今後必要最低限の補修で対応したい。

## 漁協合併 合併に向けた各漁協の取り組み 概ね予定通り進んでいる

**質問** 平成21年度の先行合併を町としても人的支援、基金の設立など支援しているが、民事再生法の適用が11月にずれ込んだり、サケ漁の不振など、当初の予定とは違う現状になったと思う。各漁協は、漁協合併に向けて行動し、予定通り進んでいるか。

**沼崎町長** 各漁協の組合員への説明については、予定より若干遅れて12月になるようだが、概ね予定通り進んでいる。サケ漁の不振や

アワビ単価の下落など、漁協経営に影響が及ぶことを心配しているが、現在は合併による事業の効率化を目指して、合併計画の協議を進めている段階である。  
**質問** 民事再生法がずれ込んだ理由は。  
**水産振興主幹** 裁判所の都合によるものである。

**質問** 各漁協の決算が予定通りとならなかった場合、合併に影響は。  
**水産振興主幹** 決算にかかわらず、漁協は合併に進む。

## 町の考えを聞く

町では、平成22～24年度までに前須賀タブの木荘線の整備を行うようだが、長林大浦線が整備されたこ

とから、田の浜地区と小谷鳥地区を結ぶ道路も整備し、船越半島を1周できる観光道路として活用する発想はないか。